

令和4年6月9日

令和3年における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課

1 概要

(1) 全国の発生状況

令和3年の山岳遭難は

○ 発生件数	2,635件	(前年対比+341件)
○ 遭難者	3,075人	(前年対比+378人)
うち死者・行方不明者	283人	(前年対比+5人)
負傷者	1,157人	(前年対比+183人)
無事救助	1,635人	(前年対比+190人)

であった。

過去10年間の山岳遭難発生状況を見ると、増加基調で推移していたのが、令和元年から2年連続で減少したものの、令和3年は増加に転じた。

(2) 都道府県別の発生状況

都道府県別の山岳遭難発生状況を見ると、最も多いのが長野県257件、次いで北海道197件、東京都157件であった。

2 特徴

(1) 目的別・態様別

遭難者3,075人について、目的別にみると、登山（ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む。）が77.9%と最も多く、次いで山菜・茸採りが11.3%を占めている。

また、態様別にみると、道迷いが41.5%と最も多く、次いで転倒が16.6%、滑落が16.1%を占めている。

(2) 年齢層別

遭難者のうち40歳以上が2,412人と全体の78.4%を占め、また、60歳以上が1,486人と全体の48.3%を占めている。

また、死者・行方不明者では、40歳以上が263人と全体の92.9%を占め、60歳以上が203人と全体の71.7%を占めている。

(3) 単独登山者の遭難状況

単独登山（「山菜・茸採り」、「観光」等を含む。）遭難者1,282人のうち、死者・行方不明者は174人で、13.6%を占めており、複数登山（2人以上）遭難者の死者・行方不明者の割合（6.1%）と比較すると7.5ポイント高くなっている。

(4) 通信手段の使用状況

発生件数2,635件の82.0%が遭難現場から通信手段（携帯電話、無線（アマチュア無線を含む。））を使用し、救助を要請している。

3 山岳遭難防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を防ぐためには、次に掲げる点に留意する必要がある。

○ 的確な登山計画と万全な装備品等の準備

気象条件や体力、技術、経験、体調等に見合った山を選択し、余裕のある登山日程、携行する装備、食料等に配意し、安全な登山計画を立てる。

登山計画を立てるときは、滑落等の危険箇所や、トラブル発生時に途中から下山できるルート（エスケープルート）等を事前に把握する。

また、登山予定の山の気候に合った服装や登山靴、ヘルメット、雨具（レインウェア）、ツェルト（簡易テント）、地図、コンパス、行動食等登山に必要な装備品や、万一遭難した際に助けを呼ぶための連絡用通信機器（携帯電話、無線機、予備バッテリー等）を準備するなど、装備を万全に整える。

GPS機能付きの携帯電話等は、自分の現在地をより速やかに救援機関に伝えることができるなど、救助要請手段として有効であるものの、多くの山岳では通話エリアが限られることやバッテリーの残量に注意する必要がある。

なお、単独登山は、トラブル発生時の対処がグループ登山に比べて困難になることが多いことを念頭に、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

○ 登山計画書・登山届の提出

登山計画書・登山届は、家族や職場等と共有しておくことにより、万一の場合の素早い捜索救助の手掛かりとなるほか、計画に不備がないか事前に確認するものであることを認識する。また、作成した登山計画書・登山届は、一緒に登山する仲間、家族や職場等と共有するとともに、登山口の登山届ポスト、都道府県警察、自治体などに提出する。

○ 道迷い防止

地図の見方やコンパスの活用方法を習得し、登山には地図やコンパス等を携行して、常に自分の位置を確認するよう心掛ける。

○ 滑落・転落防止

日頃から手入れされた登山靴やピッケル、アイゼン、ストック等の装備を登山の状況に応じて的確に使いこなすとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

○ 的確な状況判断

霧（ガス）や吹雪等による視界不良や体調不良時等には、道に迷ったり、冷静さを失い、滑落等の危険が高まることから、「道に迷ったかも。」と思ったら、闇雲に進むことなく、今歩いて来た道を辿り、正規の登山道まで引き返すなど、状況を的確に判断するとともに、早めに登山を中止するよう努める。

○ 新型コロナウイルス感染防止

山域を管轄する自治体の移動制限等の情報、公共交通機関の運行状況や山小屋等の運営状況を確認する。

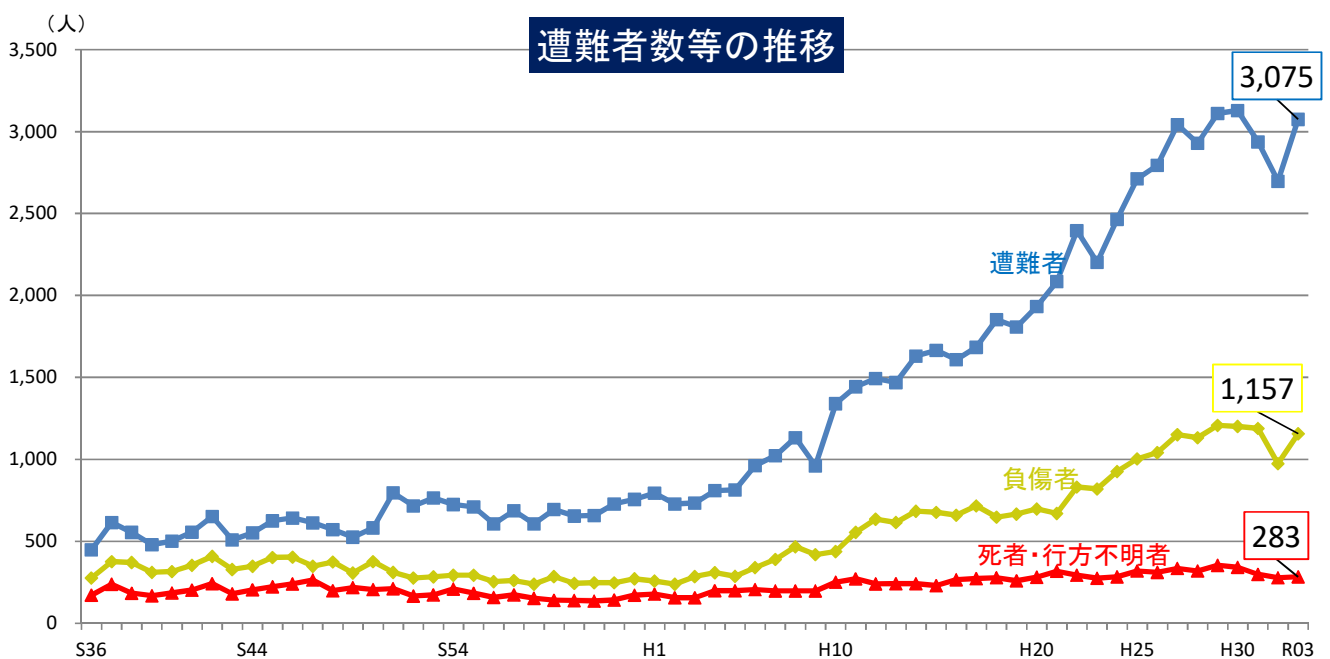
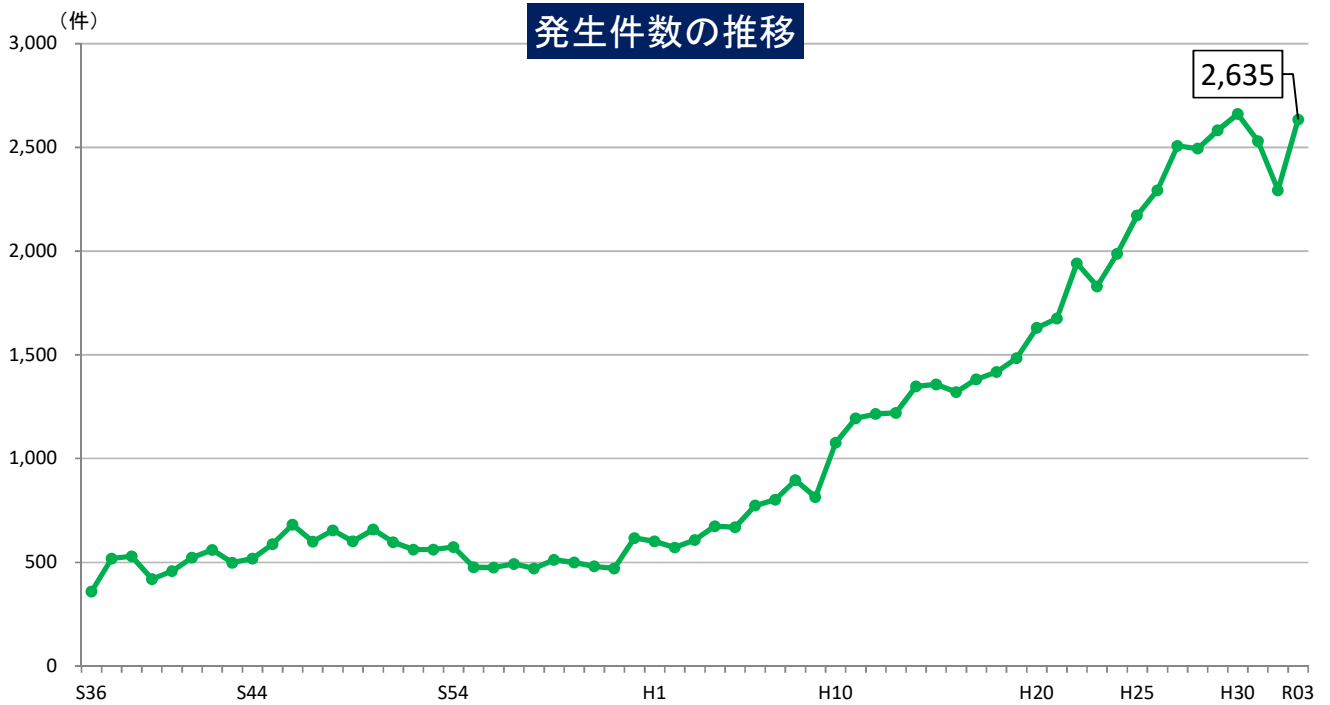
日頃から健康管理を行い、少しでも体調不良があれば、入山を控える。

なお、屋外において、他者と身体的距離が確保できる場合、他者と距離がとれない場合であっても会話をほとんど行わない場合は、マスクの着用は必要なく、特に夏場については、熱中症予防の観点から、マスクを外すことが推奨されている。

注：％は、小数点以下第2位を四捨五入（表1～8においても同じ。そのため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。）。

表1 概要

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
											構成比
発生件数(件)	1,988	2,172	2,293	2,508	2,495	2,583	2,661	2,531	2,294	2,635	
遭難者数(人)	2,465	2,713	2,794	3,043	2,929	3,111	3,129	2,937	2,697	3,075	100.0%
死者・行方不明者	284	320	311	335	319	354	342	299	278	283	9.2%
死者	249	278	272	298	278	315	298	267	241	255	8.3%
行方不明者	35	42	39	37	41	39	44	32	37	28	0.9%
負傷者	927	1,003	1,041	1,151	1,133	1,208	1,201	1,189	974	1,157	37.6%
無事救出者	1,254	1,390	1,442	1,557	1,477	1,549	1,586	1,449	1,445	1,635	53.2%



注:「遭難者数」には、昭和51年から無事救出者を含む。

表2 都道府県別山岳遭難発生状況

(令和3年)

都道府県	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				
		死者	行方不明者	負傷者	無事救出	
北海道	197	216	14	4	85	113
青森県	52	56	7	1	10	38
岩手県	40	51	6		19	26
宮城県	42	44	6	1	19	18
秋田県	49	54	7	1	13	33
山形県	59	65	10	1	29	25
福島県	57	66	2	1	27	36
東京都	157	195	10		80	105
茨城県	32	35	3	1	19	12
栃木県	51	61	8		29	24
群馬県	115	133	11		70	52
埼玉県	82	91	11	1	39	40
千葉県	5	5			2	3
神奈川県	135	153	6		61	86
新潟県	112	131	18	5	31	77
山梨県	116	134	12	1	51	70
長野県	257	276	47	2	115	112
静岡県	72	87	5	1	32	49
富山県	104	110	7	2	60	41
石川県	29	31	2		13	16
福井県	24	27	1	1	10	15
岐阜県	93	107	10	2	46	49
愛知県	46	55	5		14	36
三重県	65	80	6		30	44
滋賀県	83	96	7		48	41
京都府	30	37			6	31
大阪府	8	18			2	16
兵庫県	126	167	4	1	63	99
奈良県	56	67	7	1	29	30
和歌山県	11	23	2		4	17
鳥取県	37	45	1		12	32
島根県	12	13	1		2	10
岡山県	8	9			2	7
広島県	42	57	3		10	44
山口県	6	8			1	7
徳島県	12	14	1		1	12
香川県	7	10	1		3	6
愛媛県	16	20	4		7	9
高知県	5	5		1		4
福岡県	46	60	1		10	49
佐賀県	16	19	1		5	13
長崎県	13	16			6	10
熊本県	11	16	1		2	13
大分県	40	43	3		20	20
宮崎県	13	15	1		3	11
鹿児島県	32	34	2		17	15
沖縄県	14	20	1			19
合計	2,635	3,075	255	28	1,157	1,635

表3 目的別山岳遭難者

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登山	2,223	2,315	2,223	2,038	2,395	77.9%
登山	1,957	2,022	1,902	1,681	1,995	64.9%
ハイキング	136	161	159	233	260	8.5%
スキー登山	65	54	70	43	48	1.6%
沢登り	36	47	57	42	50	1.6%
岩登り	29	31	35	39	42	1.4%
山菜・茸採り	380	385	360	381	346	11.3%
その他	508	429	354	278	334	10.9%
観光	116	141	62	33	49	1.6%
作業	45	43	36	38	46	1.5%
溪流釣り	43	25	41	40	37	1.2%
写真撮影	21	23	15	13	23	0.7%
自然観賞	18	13	12	22	18	0.6%
山岳信仰	15	4	8	4	6	0.2%
狩猟	9	5	9	6	13	0.4%
スキー	77	86	94	52	46	1.5%
その他	147	73	66	65	79	2.6%
不明	17	16	11	5	17	0.6%
合計	3,111	3,129	2,937	2,697	3,075	100.0%

目的別山岳遭難者構成比の推移

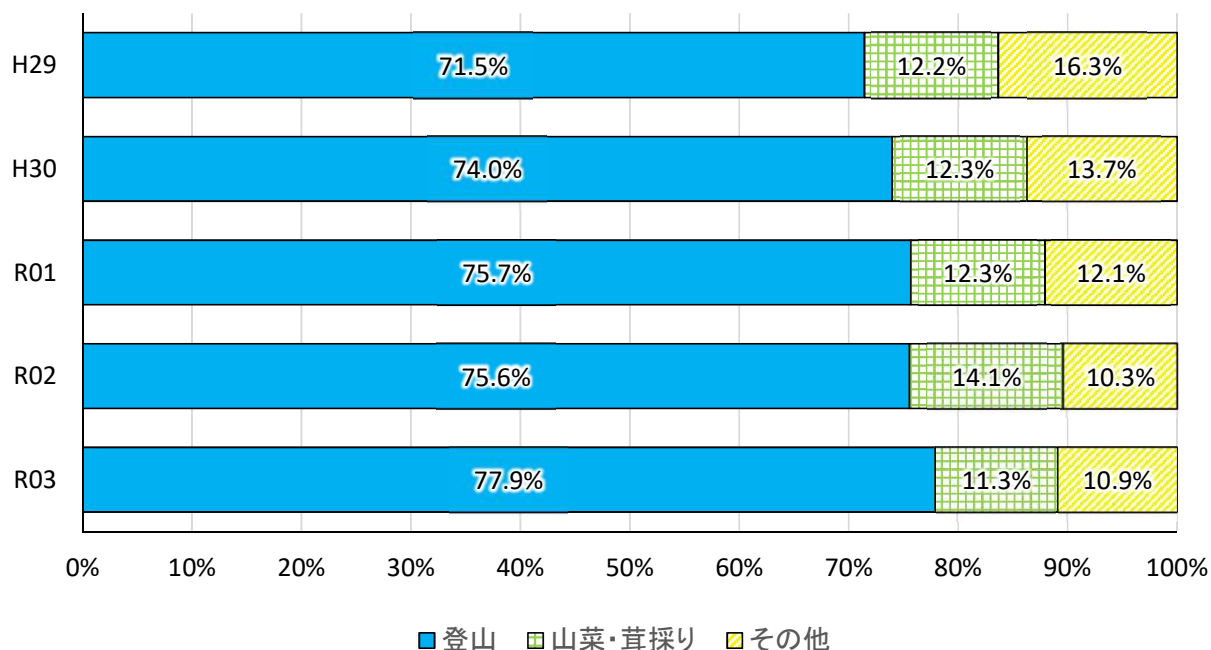


表4 態様別山岳遭難者

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道 迷 い	1,252	1,187	1,142	1,186	1,277	41.5%
滑 落	524	544	485	423	496	16.1%
転 倒	469	468	492	371	510	16.6%
病 気	232	276	205	188	218	7.1%
疲 労	175	237	219	170	204	6.6%
そ の 他	459	417	394	359	370	12.0%
転 落	100	100	88	93	79	2.6%
悪 天 候	18	39	15	27	32	1.0%
野生動物襲撃	63	18	62	39	27	0.9%
落 石	13	11	10	8	15	0.5%
雪 崩	65	5	9	8	11	0.4%
落 雷			3			
鉄 砲 水					1	0.0%
有 毒 ガ ス						
そ の 他	116	149	135	105	124	4.0%
不 明	84	95	72	79	81	2.6%
合 計	3,111	3,129	2,937	2,697	3,075	100.0%

態様別山岳遭難者構成比の推移

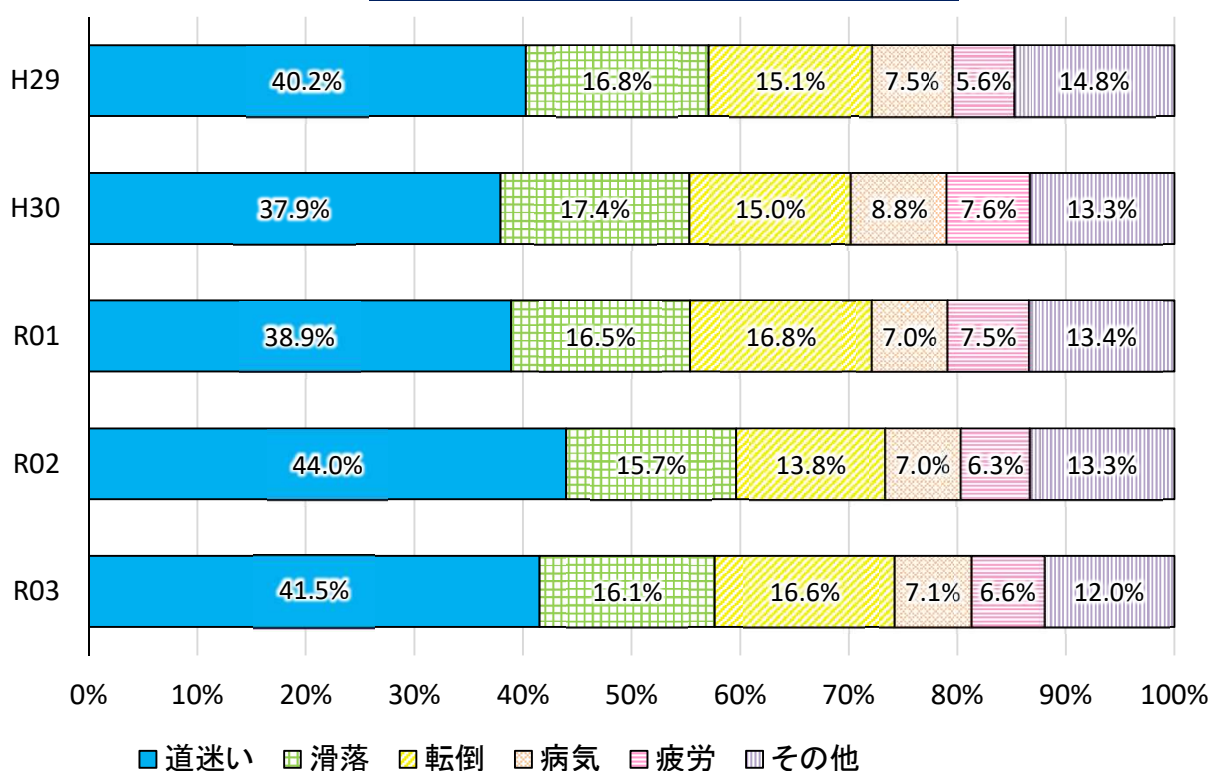


表5 年齢層別山岳遭難者

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20 歳 未 満	189	176	137	154	186	6.0%
20 ~ 29	261	216	207	194	247	8.0%
30 ~ 39	240	280	258	231	229	7.4%
40 ~ 49	378	390	396	321	413	13.4%
50 ~ 59	455	486	451	444	513	16.7%
60 ~ 69	741	692	640	511	572	18.6%
70 ~ 79	669	698	668	636	702	22.8%
80 ~ 89	165	181	173	196	207	6.7%
90 歳 以 上	13	10	7	7	5	0.2%
不 明				3	1	0.0%
合 計	3,111	3,129	2,937	2,697	3,075	100.0%

年齢層別山岳遭難者構成比の推移

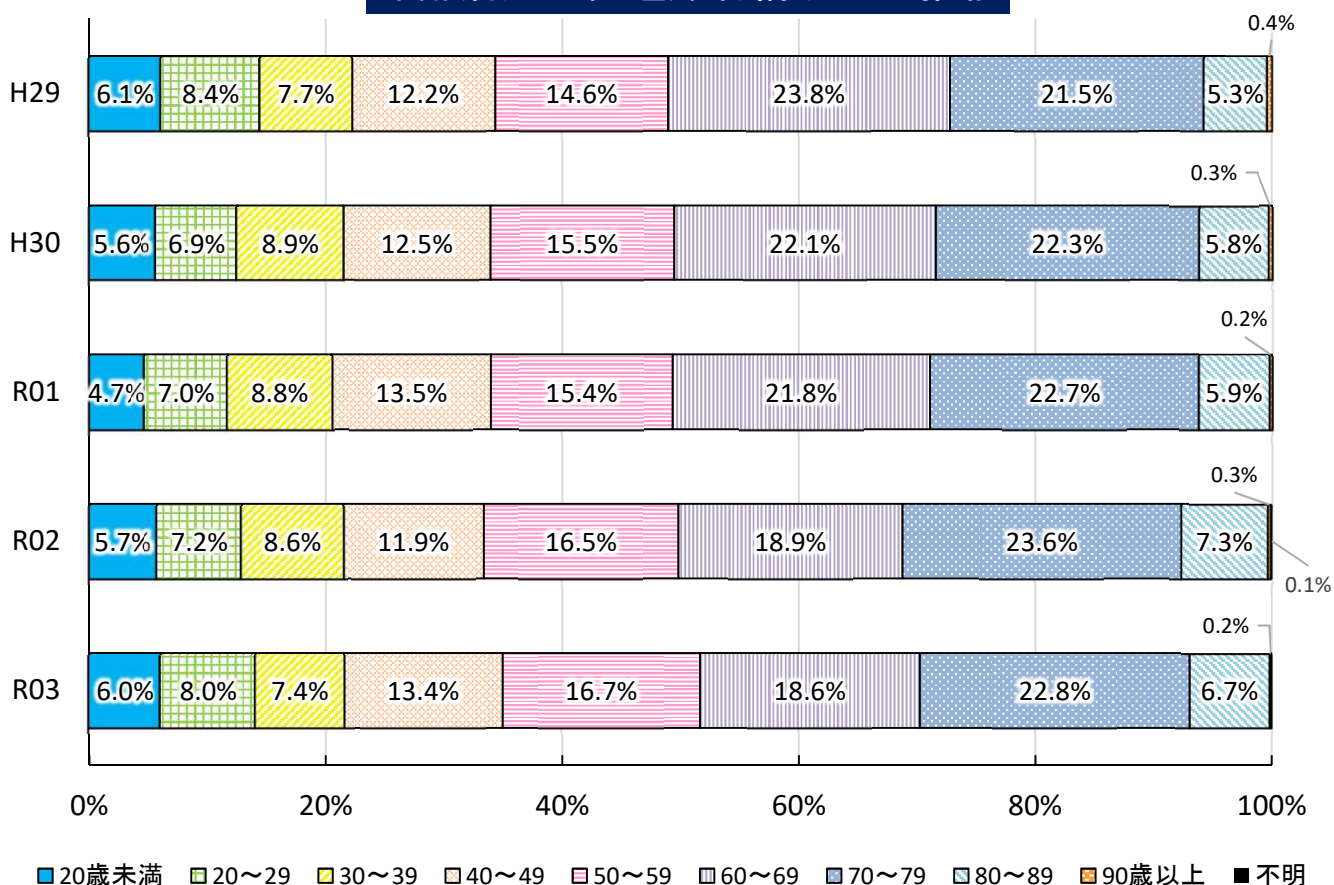


表6 年齢層別山岳遭難者(死者・行方不明者)

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20 歳 未 満	10	1	2	2		
20 ~ 29	10	3	10	8	6	2.1%
30 ~ 39	19	13	13	14	13	4.6%
40 ~ 49	23	37	30	16	24	8.5%
50 ~ 59	63	42	38	35	36	12.7%
60 ~ 69	111	101	78	69	61	21.6%
70 ~ 79	81	110	93	96	102	36.0%
80 ~ 89	33	32	34	37	39	13.8%
90 歳 以 上	4	3	1	1	1	0.4%
不 明					1	0.4%
合 計	354	342	299	278	283	100.0%

年齢層別山岳遭難者(死者・行方不明者)構成比の推移

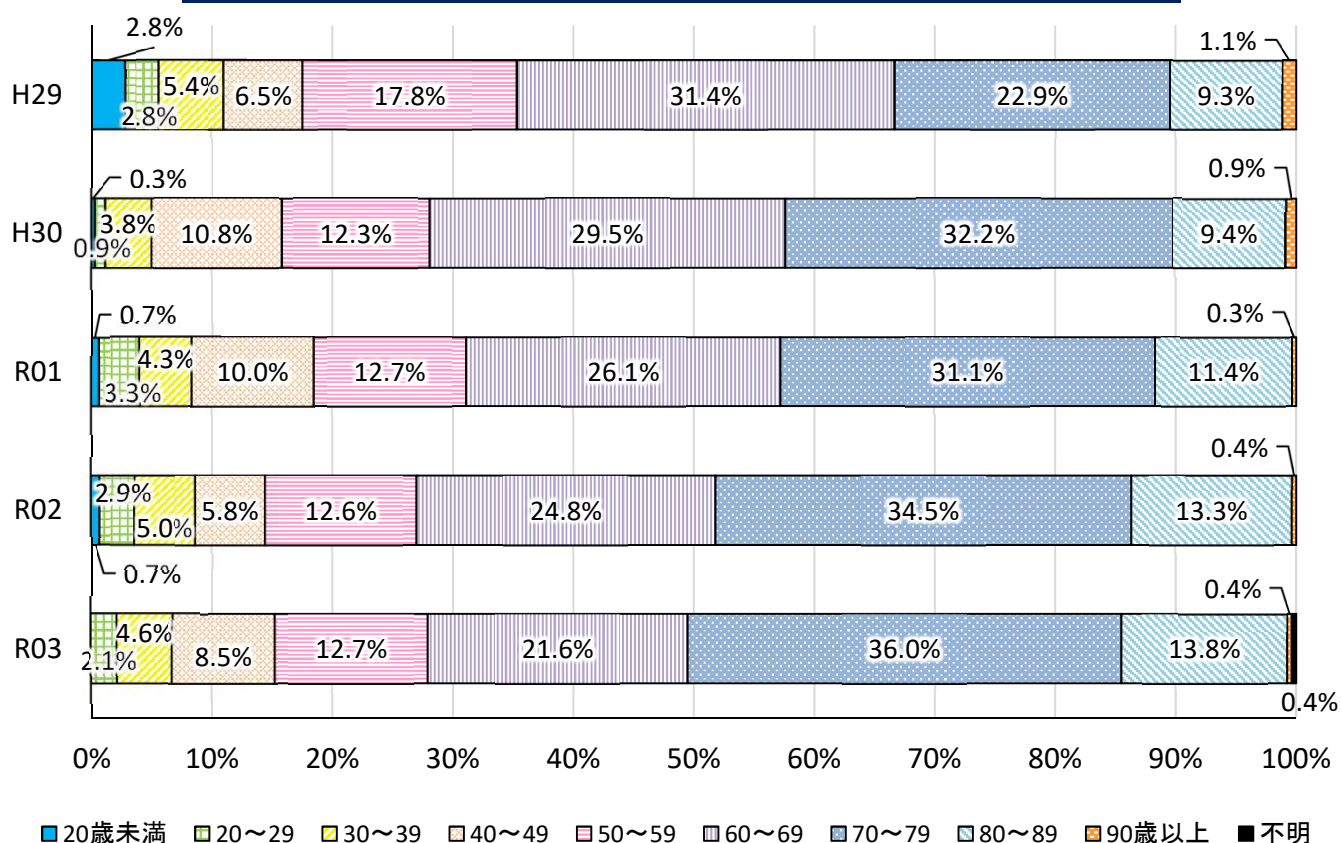
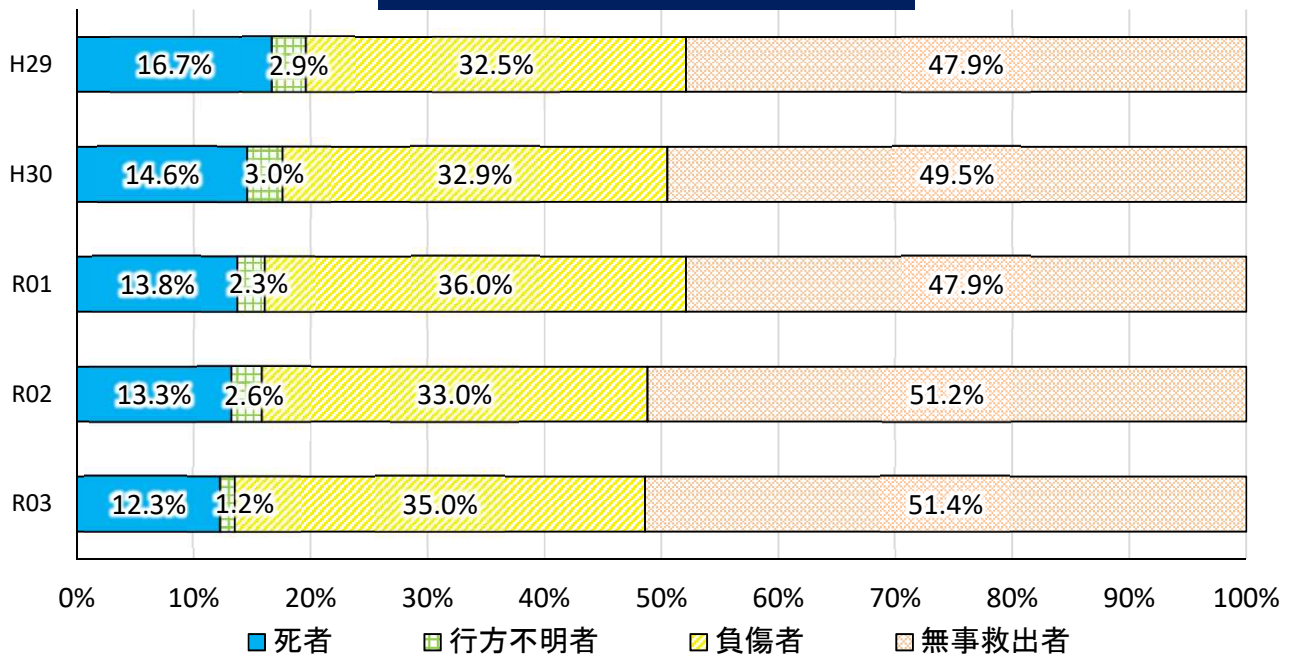


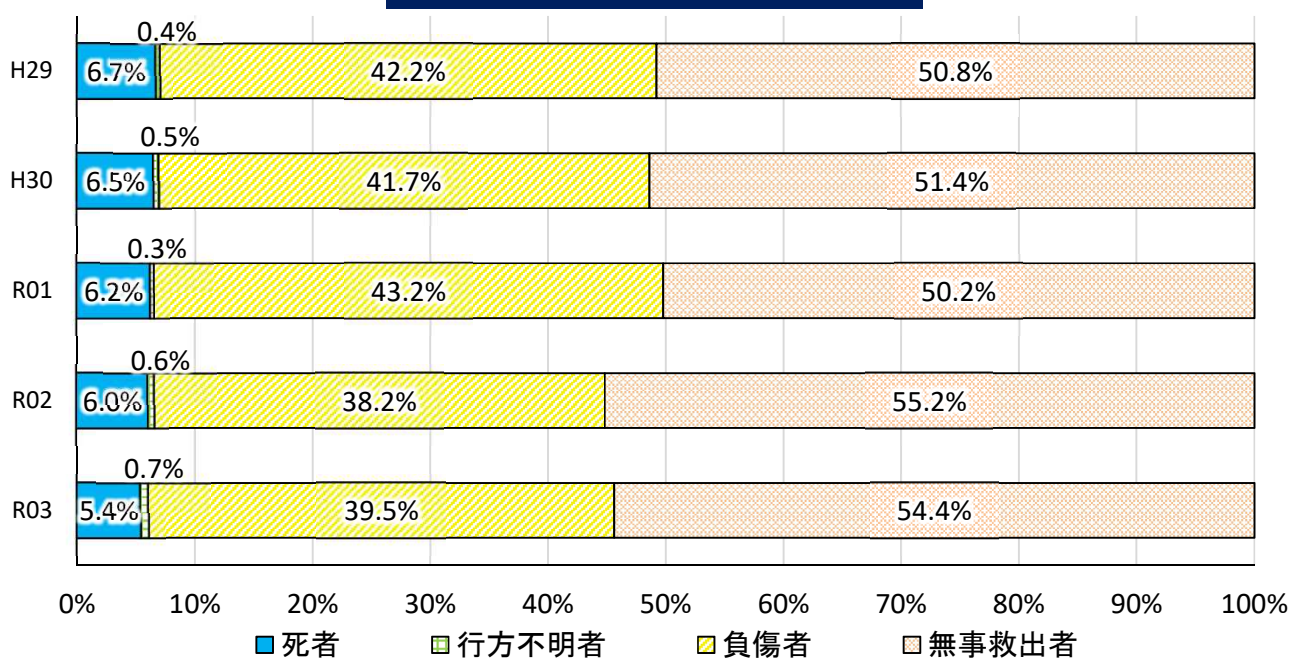
表7 単独登山者の遭難状況

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
遭難者	1,069	1,170	1,117	1,086	1,282	
死者・行方不明者	210	206	180	172	174	13.6%
死者	179	171	154	144	158	12.3%
行方不明者	31	35	26	28	16	1.2%
負傷者	347	385	402	358	449	35.0%
無事救出者	512	579	535	556	659	51.4%
全遭難者に占める単独登山者の割合	34.4%	37.4%	38.0%	40.3%	41.7%	

単独登山者の遭難状況の推移



複数登山者の遭難状況の推移



注:この頁における「登山者」とは、目的が「山菜・茸採り」「観光」等の者も含む。

表8 通信手段の使用状況

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
	件数	件数	件数	件数	件数	構成比
発生件数	2,583	2,661	2,531	2,294	2,635	
使用あり	2,003	2,085	1,972	1,837	2,161	82.0%
携帯電話	1,991	2,071	1,960	1,815	2,142	81.3%
無線	12	14	12	22	19	0.7%
使用なし	580	576	559	457	474	18.0%

注1: 通話エリア圏外、バッテリー切れ等は「使用なし」に含む。

注2: 携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。

通信手段の使用状況の推移

